

カーセンサー

2017年12月11日
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー 2017-2018 カスタマーが最も注目したのは「マツダ RX-8」

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都中央区 代表取締役社長：山口 文洋）が企画制作する中古車情報メディア『カーセンサー』は、この一年で掲載された約 6,000 モデルの車の中から、ユーザーの購入意欲の高さに着目し、ランキングを実施しました。その結果、ユーザーの関心を最も集めたのは「マツダ RX-8」となりましたので、分析やエリア別ランキングと共に報告します。

■カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー 2017-2018 は「マツダ RX-8」

カーセンサーが保有する膨大なデータをもとに、中古車市場でユーザーの購入意欲が最も高かった車種が何かを探る「カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー」。第4回となる今回その栄誉に輝いたのは、「マツダ RX-8」でした。

2015年に1位、2016年は2位と過去のランキングでも常に上位にランクインしていましたが、2017年はトップに返り咲く結果となりました。マツダが独自に開発したロータリーエンジンを搭載し、実用性にも長けた4ドア（観音開き）クーペである点が特徴的なモデルとなっています。



マツダ RX-8 (初代)

■カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー 2017-2018 TOP10

1位	マツダ RX-8 (初代)	昨年順位：2位
2位	トヨタ アルファード (現行型)	同：5位
3位	トヨタ ヴェルファイア (現行型)	同：4位
4位	スバル レガシィツーリングワゴン (4代目)	同：3位
5位	スバル フォレスタ (現行型)	同：6位
6位	トヨタ ハリアー (現行型)	同：1位
7位	トヨタ ランドクルーザープラド (現行型)	同：18位
8位	三菱 アウトランダーPHEV (現行型)	同：81位
9位	BMW 3シリーズ (3代目)	同：20位
10位	ホンダ フリード (現行型)	同：圏外
10位	スバル レガシィ B4 (2代目)	同：7位



トヨタ アルファード (現行型)



トヨタ ヴェルファイア (現行型)

今回のランキングでは、2位・3位の「トヨタ アルファード」と「トヨタ ヴェルファイア」など、登場から約3年が経過したモデルがランクを上げています。押し出し感の強いデザインが人気の2台です。サルーンと呼ばれるにふさわしい豪華で広々とした室内が特徴的で、フラッグシップらしいラグジュアリーさが特徴的なミニバンとなります。「三菱 アウトランダーPHEV」は昨年81位から8位に大きく順位を伸ばしており、プラグインハイブリッドのモデルが初めて上位10車種にランクインをしました。

カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー特設サイト http://www.carsensor.net/pro/cs_coty/

▼カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤーを特集した「カーセンサー 2月号」は12月20日より順次発売

イヤーカーとなった「マツダ RX-8」はもちろん、ポイント獲得上位30台の中から新車販売でも人気の現行型を中心にピックアップして紹介します。その他、ランキング上位の個性派モデルや高級モデルを取り上げます。エリア別、年代別のランキングも必見です。

※選考方法：2016年11月1日～2017年10月31日の1年間においてカーセンサーnetに掲載されたすべてのモデルのうち

①上記の期間中でカーセンサーnetに掲載された総台数

②ユーザーから寄せられた問い合わせの総件数

③掲載された1台当たりの問い合わせ集中率

以上の要素を独自のルールでポイント化し、ポイント数が最も高かったモデルをその年のイヤーカーとする

リクルートマーケティングパートナーズはこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここいない、出会い。」を届けることを目指していきます

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
http://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

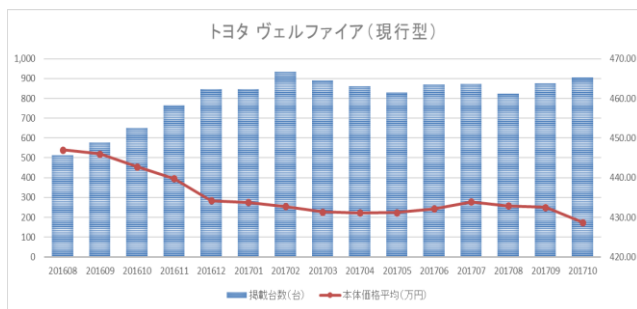
カーセンサー・カー・オブ・ザ・イヤー 2017-2018 に対する カーセンサー編集長西村 泰宏の見解

■「マツダ RX-8」は 10 代・20 代のランキングで 1 位獲得

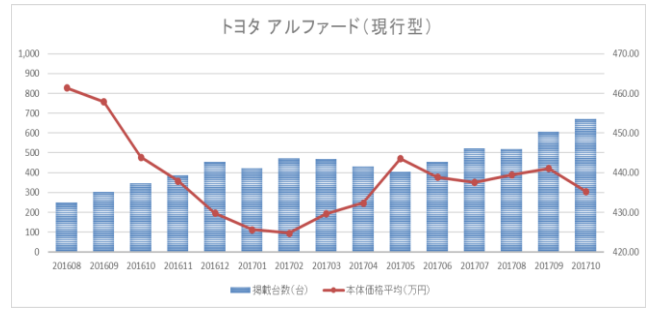
1 位の「マツダ RX-8」は、過去のランキングでも常に上位にランクインしている人気車です。中古車平均価格が 70.0 万円（2017 年 12 月 7 日時点）と手頃な価格で手に入るスポーティなクルマであることから、10 代・20 代のランキングでも共に 1 位を獲得しています。また、後継モデル発表への期待感が高まったこともあり、より注目度が高まった結果と言えます。

■高級車は新車発売後約 2~3 年が中古車購入のねらい目

2・3 位の「トヨタ アルファード」や「トヨタ ヴェルファイア」は、2015 年 1 月の発売から約 3 年が経とうとしています。新車を購入後、初回の車検は 3 年後にやってきます。一般的な傾向として、車検のタイミングで乗り替える人が増えるため、中古車市場では流通台数が増加し選びやすくなります。また、流通量が増えることで価格も下がるため注目度が高まります。とくに新車時の価格が高いモデルについては中古車で購入するメリットが出てくる時期と言えます、昨年のランキングで 1 位を獲得した「トヨタ ハリアー」もその代表例と言えるでしょう。



▲流通量が増えて価格も下落し安定



▲流通量がまだ少なく価格は安定していないが下落傾向

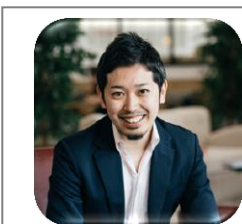
また、2016 年は 81 位だった「三菱 アウトランダー PHEV」が 8 位に浮上。プラグインハイブリッドモデルとしては初めてのトップ 10 入りしており、世の中の EV 化の波が中古車市場にも少しずつ影響し始めているように感じます。

■家族形態によってボディタイプは大きく変化し、50 代以上はクルマ選びが多様化

世代別にランキング上位のモデルを見てみると、20 代は、低予算で狙えるコンパクトカーやクーペなどのスポーティなクルマが人気です。30~40 代になると、家族形態の変化に合わせて乗車人数や荷物が増えるため、ミニバンや SUV、ステーションワゴンが主流になってきます。

そして、50 代以上になると、それぞれのライフスタイルに合わせてクルマの選び方が一気に多様化してきます。子育てが一段落しコンパクトカーにダウンサイズする層は、「ミニミニ」や「日産 リーフ」、「ボルボ V40」などに注目している様子。王道のセダンを選ぶ層は、「BMW の 3 シリーズや 5 シリーズ」、「レクサス HS」などが人気です。他にも、SUV では「三菱 アウトランダー PHEV」、クーペの「ボルシェ 911」や軽自動車だとオープンカーの「ダイハツ コペン」やクロカンの「三菱 パジェロミニ」が上位に入ります。購入後の用途をイメージしながら、様々なクルマが選ばれているようです。

	20代	30代	40代	50代	60代
1	クーペ マツダ RX-8 (初代)	ミニバン 三菱 デリカD:5 (現行型)	ミニバン トヨタ ヴェルファイア (現行型)	ハッチバック 日産 リーフ (初代)	クロカン/SUV 三菱 アウトランダー PHEV (現行型)
2	ハッチバック マツダ アクセラスポーツ (現行型)	ミニバン トヨタ アルファード (現行型)	ミニバン トヨタ アルファード (現行型)	セダン BMW 3シリーズ (現行型)	セダン レクサス HS (現行型)
3	クーペ トヨタ B6 (現行型)	クロカン/SUV トヨタ ハリアー (現行型)	クロカン/SUV 三菱 アウトランダー PHEV (現行型)	セダン BMW 3シリーズ (3代目)	ハッチバック 日産 リーフ (初代)
4	セダン スバル レガシィ B4 (2代目)	ミニバン ホンダ フリード (現行型)	ステーションワゴン BMW 3シリーズツーリング (現行型)	クーペ ボルシェ 911 (現行型)	セダン トヨタ クラウンロイヤル (現行型)
5	クーペ ホンダ CR-Z (初代)	ミニバン ホンダ オデッセイ (現行型)	ステーションワゴン BMW 5シリーズツーリング (4代目)	軽自動車 ダイハツ コペン (初代)	ステーションワゴン ホンダ シャトル (現行型)
6	クロカン/SUV トヨタ ハリアー (現行型)	ミニバン 日産 セレナ (現行型)	ステーションワゴン スバル レガシィツーリングワゴン (4代目)	ハッチバック ミニミニ (現行型)	ハッチバック スズキ ソリオ (現行型)
7	ハッチバック マツダ デミオ (現行型)	ミニバン ホンダ ステップワゴン (現行型)	ミニバン 三菱 デリカD:5 (現行型)	クロカン/SUV 三菱 アウトランダー PHEV (現行型)	軽自動車 三菱 パジェロミニ (2代目)
8	クロカン/SUV マツダ CX-5 (初代)	クロカン/SUV スバル フォレスター (現行型)	ミニバン ホンダ オデッセイ (現行型)	ハッチバック ミニミニ (初代)	ステーションワゴン メルセデス・ベンツ クラスワゴン (3代目)
9	ハッチバック スバル インプレッサスポーツ (初代)	ミニバン トヨタ ヴォクシー (現行型)	ミニバン 日産 セレナ (現行型)	セダン BMW 5シリーズ (4代目)	ハッチバック トヨタ iQ (初代)
10	クロカン/SUV スバル フォレスター (現行型)	ミニバン トヨタ ヴェルファイア (現行型)	ハッチバック 日産 リーフ (初代)	ハッチバック ミニミニ (2代目)	ハッチバック トヨタ プリウス (現行型)



カーセンサー編集長 西村 泰宏 (にしむら やすひろ)

2005 年新卒でリクルートに入社。2015 年、自動車事業本部 編集グループに異動。『カーセンサー』本誌の編集とリニューアルプロジェクトの推進を行う。ネットコンテンツなども含め、全体のデスク業務を担当。2017 年 4 月より現職。

●北海道

1位 スバル レガシィ B4 (2代目)
 2位 日産 エルグランド (2代目)
 3位 スバル レガシィツーリングワゴン (4代目)
 例年通りスバル車が上位を占めるも、2位に「日産 エルグランド」がランクイン。4位にも「日産 エクストレイル (初代)」と、スバル、日産の2強体制に。その他上位には、「ランドクルーザー100 (2代目)」や「フォレスター (2代目)」、「ジムニー (現行型)」など4WD車で走破性の高いモデルが目立ちました。悪路を走ることも多い北海道らしい結果となりました。

●東北

1位 スバル レガシィツーリングワゴン (4代目)
 2位 スズキ ジムニー (現行型)
 3位 トヨタ アルファード (現行型)
 昨年同様「レガシィツーリングワゴン (4代目)」が1位。3位の「アルファード (現行型)」に続いて、4位以下では「デリカ D:5 (現行型)」、「ヴェルファイア (現行型)」と車内が広く、大型で現行型のミニバンがランクインしました。以降も、「オデッセイ (3代目)」や「フリード (現行型)」、「セレナ (現行型)」など、ミニバンが多数上位に入り圧倒的に注目されています。

●北陸・甲信越

1位 スズキ ジムニー (初代)
 2位 スバル インプレッサハッチバック (初代)
 3位 スバル インプレッサ STI (2代目)
 2~5位を独占するスバル車をおさえ、ジムニー (初代) が1位を獲得。トップ10まで見るとスバルが7車種を占め圧倒的な人気となりました。ボディタイプでは、クロカン、ハッチバック、セダン、ミニバンにステーションワゴンと様々なカテゴリーがランクインしています。用途はもちろん、地域によって降雪量などが異なるため、注目される車種が変わってきているのでしょう。

●北関東

1位 マツダ RX-8 (初代)
 2位 日産 GT-R (現行型)
 3位 トヨタ ランドクルーザープラド (現行型)
 イヤーカーになった「RX-8 (初代)」が1位を獲得。2位の「GT-R (現行型)」とともにスポーツティなクルマが上位を占めていることが特徴です。一方で、3位以降では「ランドクルーザープラド (現行型)」、「フォレスター (3代目) (現行型)」、「ジムニー (初代)」が続いており、クロカン/SUVも注目を集めています。

●関東

1位 マツダ RX-8 (初代)
 2位 日産 リーフ (初代)
 3位 BMW 3シリーズ (3代目)
 北関東同様に、イヤーカーの「RX-8 (初代)」が1位。3位の「3シリーズ (3代目)」以外にも、5位に「X1 (初代)」、6位に「3シリーズ (現行型)」がランクインするなど、BMW人気が目立ちました。ベスト20に広げるとミニやポルシェなどもランクインし、ランキングの半数を輸入車が占める点は都市圏ならではの傾向と言えるでしょう。

●東海

1位 トヨタ ヴェルファイア (現行型)
 2位 マツダ デミオ (現行型)
 3位 トヨタ アルファード (現行型)
 トヨタのお膝元である東海地方で1位に輝いたのは、「ヴェルファイア (現行型)」でした。2位の「デミオ」を除くと、3位「アルファード (現行型)」、4位「ハリアー (現行型)」となり、高級感を売りとするトヨタの現行モデルが続いています。トップ10のうち7車種が現行型で、東海では比較的新しいモデルへの関心が高いようです。

●関西

1位 トヨタ アルファード (現行型)
 2位 ホンダ フリード (現行型)
 3位 トヨタ C-HR (現行型)
 「アルファード (現行型)」や「フリード (現行型)」をはじめ、ミニバンが多く上位にランクインした関西。2位の「フリード (現行型)」や3位の「C-HR (現行型)」、7位の「セレナ (現行型)」と、2016年に新車で発売を開始した新しいモデルがトップ10入りしているのも特徴的です。関東と同様に、軽自動車も10位までには登場しないのも都市圏の傾向でしょう。

●中国

1位 マツダ ロードスター (初代)
 2位 マツダ RX-8 (初代)
 3位 マツダ ロードスター (2代目)
 マツダの本社がある中国地方はなんとトップ10のうち8台がマツダ車を占めます。ロードスターが世代違いで1位と3位、9位に3台ランクインしていることから、地元企業への愛着を感じます。そして、2位にはイヤーカーの「RX-8 (初代)」が。マツダの中でもスポーツカーが中国地方のユーザーからは人気が高いようです。

●四国

1位 スズキ ジムニー (初代)
 2位 マツダ RX-8 (初代)
 3位 ジープ コンパス (初代)
 1位の「ジムニー (初代)」や3位の「コンパス (初代)」など、小型のクロカン/SUVが人気の四国地方。その他トップ10には、「180SX (初代)」のほか、「シルビア (2代目)」など低年式のクーペタイプがランクインしており、この傾向は四国地方にのみ見られます。また、「ロードスター (初代)」や「S660 (現行型)」などのオープンカーも注目されています。

●九州・沖縄

1位 スズキ ジムニー (初代)
 2位 スズキ ワゴン R (2代目)
 3位 トヨタ ランドクルーザー70 (初代)
 「ジムニー (初代)」、「ワゴン R (2代目)」と軽自動車も3位までに2台ランクインしており人気です。また、「ランドクルーザー70 (初代)」や「ランドクルーザープラド (現行型)」、「ハリアー (現行型)」のような大きめのSUVも人気です。一方で、ランキングの上位にはミニバンやステーションワゴンが入っていないのも特徴的と言えそうです。